

中年エンジニアの真実

～分散システムの尊い歯車たち～

皆さん、こんにちは。今回は少し趣向を変えて、我々中年エンジニア世代について語ってみたいと思います。

先日、学生に授業でHTTPSの仕組みを説明していた時、「TLS 1.3の話は詳しいのに、なぜTikTokのトレンドがわからないんですか？」と言われました。その瞬間、ふと気づいたのです。私はいつの間にか「最新技術を追いかける側」から「基盤技術を守る側」になっていたのだと。頭の上はIPv4アドレスのように枯渇し散らかっている、お腹はバケットのようにふくらみ、深夜の障害対応で目が赤くなる。そんな自分を画面に映る顔で見て苦笑いする毎日が、実はインターネットの大黒柱としての証なのかもしれません。

中年の我々は、まさにインターネットの「自律・分散・協調」を体現しています。上司からは「もっとクラウドネイティブに」と言われ、部下からは「コンテナ化が遅い」と思われ、家では「またサーバーダウンで帰れないの？」と言われ、子どもからは「お父さんのWi-Fi、遅いよ」と一蹴される。まさに多重障害の状況です。

しかし、よく考えてみてください。深夜にサーバーが落ちた時、誰が駆けつけるでしょうか（最近では駆けつけなくて済むように運用設計するだろう、というツッコミはご容赦）。セキュリティインシデントが発生した時、誰が陣頭指揮を執るのでしょうか。レガシーシステムの仕様を覚えているのは誰でしょうか。そう、我々中年エンジニアなのです。まるで分散システムのノードのように、それぞれが自律的に動きながらも、全体として協調してインターネットを支えているのです。

若者のようにDockerを秒で起動することはできませんが、なぜそのサービスが落ちるのかを見抜く経験があります。ベテランのように豊富な開発経験はありませんが、まだまだ新しい技術を学ぶ意欲があります。この「中途半端さ」こそが、実は現代のIT社会にとって最も必要な存在であることを、我々は誇りに思うべきです。

最近、「技術的負債」という言葉をよく耳にします。確かに、古いシステムのメンテナンスで悩むことも多いでしょう。しかし、それはまさにインターネットの「協調」の精神を実践していることでもあります。新しいサービスと古いシステムの橋渡しをし、全体が協調して動くように調整する。これこそが我々の使命なのです。

思えば、我々はダイヤルアップから常時接続、ナローバンドからブロードバンド、ポケベル・PHS・ガラケーからスマートフォン、オンプレからクラウドと、IT革命の波を生き抜いてきました。その中で培った「とりあえず動かす」精神と「でも監視は必要」という運用感覚は、まさに今の分散型インターネット社会に求められているものではないでしょうか。

JPNIC理事

岡田 雅之

MASAYUKI OKADA

長崎県立大学 情報システム学部 教授

2004年～2020年 JPNIC職員、2020年～
長崎県立大学教授、2025年からZEN大学
教授を兼務。JANOG運営委員、dnsops.jp
幹事、他



若い頃のような最新技術への飛びつきはありませんが、中年エンジニアには中年エンジニアの魅力があります。少し疲れた表情にも深みがあり、Enterキーを叩く手にも重みがあります。完璧なコードは書けなくても、動くコードは書けます。最新フレームワークは使えないかもしれませんが、なぜそのシステムが必要なのかは理解しています。

インターネットの素晴らしさは、中央集権的な管理者がいないことです。世界中の技術者が自律的に、それぞれの持ち場で、協調しながらネットワークを維持している。我々中年エンジニアも、まさにそのノードの一つとして、地味だけれど重要な歯車の役割を果たしているのです。

中年エンジニアの皆さんにお伝えしたいことがあります。我々は確実にインターネットの中核を担っています。GitHubのスターは少ないかもしれませんが、稼働率99.9...%の安定したサービスを提供しているのです。それは決して恥ずかしいことではなく、誇るべきことなのです。今日も一日、インターネットの自律・分散・協調の精神を胸に、中年エンジニアの意地と誇りで、頑張ってください。そして時々、家のWi-Fiの速度も上げてあげましょう。

最後に、若手からベテランまで、すべての世代の皆さんにお伝えしたいことがあります。インターネットの美しさは、まさに世代を超えた協調にあります。若手エンジニアの新鮮なアイデアと最新技術への情熱、中年エンジニアの安定した運用力と橋渡し役としての経験、そしてベテラン技術者の深い洞察と長期的視点。これらすべてが有機的に結びついて、今日のインターネット社会を支えているのです。

若い皆さんには声を大にして言いたい。あなた方の革新的な発想こそが、インターネットの進化を牽引しています。我々中年世代の「それは昔試してダメだった。それ本当に動くの？」という言葉に負けず、ぜひ新しい挑戦を続けてください。ただし、たまには我々の失敗談にも耳を傾けてください。

ベテランの皆さんには感謝を込めて。あなた方が築いてきた基盤技術があるからこそ、我々は安心して新しいことにチャレンジできます。その豊富な経験と知恵を、ぜひ次の世代に伝承してください。

そして中年の我々は、引き続き両世代の架け橋として、インターネットの「協調」を実践していきましょう。時には新しい技術を学び、時には古い知恵を活かし、常に全体最適を考えながら。

インターネットのように、私たちも世代を超えて自律し、分散し、そして協調していく。それが、持続可能で豊かな社会を築く鍵なのです。皆で力を合わせて、素晴らしいインターネットの未来を作っていきましょう。